

## 【動物愛護・適正飼養分野における活躍推進のあり方について】

## (1) 動物愛護管理行政への登用

## (2) 民間企業における職域拡大

## 《令和7年度取組内容》

## ①認知度の向上に向けた取組

自治体における愛玩動物看護師の制度や専門性等の理解が必ずしも十分でないことを踏まえ、以下に取り組む。

## ⇒普及啓発物（パンフレット・ポスター）の送付：

都道府県・政令市・中核市の動物愛護管理部局（129自治体）、関係団体等  
【対応状況】

- ・都道府県等へ送付済（随時）。
- ・動物愛護週間、ぼうさい国体等各種イベントでの配布。

## ⇒説明会の場を設ける：

「愛玩動物看護師の活躍について（仮）」

対象：都道府県・政令市・中核市の動物愛護管理部局（129自治体）、  
(動物愛護管理担当部局や必要に応じて人事部局)、学校関係者等

内容：制度説明、カリキュラム説明、雇用例、意見交換

## 【対応状況】

- ・令和8年2月開催予定（web）。

## ②自治体での登用の方策の検討・実施

## ②-1：自治体登用のモデルケース作成に向けた取組みの推進

- ・今後の採用意向等をもつ自治体との意見交換と伴走支援

## 【対応状況】

自治体との意見交換の実施（継続中）や、雇用についての問い合わせ  
対応を実施（継続中）。

## &lt;意見交換での自治体からの主な意見&gt;

- ・動愛センター、動物園、畜産部局などで活躍の可能性があるのではないか（すでに畜産部局では愛玩動物看護師の有資格者がいる）。
- ・会計年度任用職員採用では異動もないため、専門性を活かせている事例がある。
- ・獣医師不足を補うためにも愛玩動物看護師の採用枠の要望を上げていきたい。まずは会計年度任用枠から進める。
- ・動愛センター等での委託先に愛玩動物看護師がいる場合がある（専門知識を持つ者を募集人員要件）
- ・任用資格に基づく採用枠がないことや愛玩動物看護師の認知不足によって採用の検討が進みにくい。
- ・動物愛護管理法条文内の動物愛護管理担当職員に資格を指定し、地方交付金による手当があれば、採用設定時の理由付けになり得るのではないか。

## 《令和7年度取組内容》

## ①認知度の向上に向けた取組

活躍機会が限られていることを踏まえ、以下に取り組む。

## ⇒普及啓発物（パンフレット・ポスター）の送付：

すでに活躍事例のある動物病院、動物園・水族館等のほか、今後活躍機会の拡大が期待される業界等：

## 【対応状況】

- ・動物病院等へ送付済（随時）。
- ・動物愛護週間、ぼうさい国体等各種イベントでの配布。

## ⇒説明会の場を設ける：

「愛玩動物看護師の活躍について（仮）」

対象：すでに活躍事例のある動物病院、動物園・水族館等のほか、  
今後活躍機会の拡大が期待される業界等

内容：制度説明、カリキュラム説明、雇用例、雇用主や愛玩動物  
看護師によるクロストーク、意見交換

## 【対応状況】

令和7年12月開催予定（web）。

## &lt;内容（予定）&gt;

- ・制度・カリキュラム説明
- ・雇用例紹介（企業等）
- ・クロストーク及び意見交換

## (1) 動物愛護管理行政への登用

### ②自治体での登用の方策の検討・実施

#### ②-2：インターン制度の活用を検討

- ・自治体へのインターンを希望する学生・学校と自治体との橋渡しに向けた検討

#### 【対応状況】

自治体および愛玩動物看護師養成大学へのヒアリング（継続中）。

#### ＜自治体からの主な意見＞

- ・動物看護学生のインターン受け入れは学校側の単位の一環としての受け入れはあるが、採用へ直結するものではないと考えている（採用枠がないため）。一方で、獣医のインターンはほぼ就職に直結しているという認識。

#### ＜大学側からの主な意見＞

- ・大学によっては、食品衛生監視員や環境衛生監視員等を取得可能（下表）。
- ・学生がインターン先を個別に見つけてきている現状。
- ・大学、自治体、各団体・協会等のネットワークづくりができると良い。例えば学生が自治体にインターンを希望した際、スムーズな連携体制の構築等。
- ・学生は就職先として地方公務員を知らないだけで、採用情報があれば興味をもつ学生も多いだろう。

#### 農林水産大臣及び環境大臣が指定する科目を開講する大学（法第31条）の資格一覧

取得可能資格			任用資格												
（受講して合格した者）	愛玩動物飼養管理士	災害支援動物危機管理士	中学校・高等学校教諭	生物種免許状（理科）	学芸員	食品衛生監視員	食品衛生管理者	環境衛生監視員	飼料製造管理者	食鳥処理衛生管理者	社会福祉主事	バイオ技術者（中級・上級）	ペット栄養管理士	実験動物一級試験	愛玩動物看護師国家試験

※各大学資料より

### ②-3：社会課題への改善に向けた取組みでの活躍を提案

- ・愛玩動物看護師の参画により改善が期待される社会課題に対し、民間での活躍事例（（2）②-2で得られた情報等）を整理し、展開：

## (2) 民間企業における職域拡大

### ②活躍機会の拡大に向けた検討・実施

#### ②-1：新たな職域での雇用機会の創出

- ・愛玩動物看護師を雇用することで差別化できる要素の整理【ペットツーリズム関係】・【ペット共生住宅関係】など

#### 【対応状況】

要素の整理等の実施（参考概要はP3,4）。

### ②-2：社会課題の改善に向けた活動における愛玩動物看護師の付加価値の整理

- ・愛玩動物看護師の参画により改善が期待される社会課題における活躍事例を集約【適正飼養指導（健康管理（適した栄養等）、しつけ、パピークラス、老犬教室など）】・【災害支援】・【動物介在教育・療法】・【学校飼育動物関係】・【社会福祉関係】ほか

#### 【対応状況】

付加価値の整理等の実施（参考概要はP5,6）。

（2）民間企業における職域拡大  
新たな職域での愛玩動物看護師の雇用機会創出に向けた検討

新たな職域等 ・グレー:すでに雇用がなされているような職域 ・イエロー:いままでに雇用がないであろう職域	愛玩動物看護師の役割	差別化できる要素	関連する主な分野 (該当カリキュラム)
ペットフード・サプリメント 製造・販売営業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物病院に向けた製品の営業</li> <li>・獣医師の指示の下、疾患のある動物の飼い主への個別具体的な栄養指導、アドバイス</li> <li>・動物看護学・栄養学等に基づき、製品の安全性評価や臨床試験をサポート</li> <li>・製品の品質管理等により安定的な供給を支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客満足度の向上:病態理解に基づく正確な栄養相談を提供し、リピート率を高める</li> <li>・獣医療連携:動物病院とメーカー間の知識ギャップを埋め、正確な情報提供とトラブル防止に貢献</li> <li>・信頼性の向上:動物看護学の知識を持つ専門家による開発・サポート体制</li> </ul>	動物栄養学、 動物内科看護学
高齢動物介護 ペットシッター業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護学的知識に基づいた日常のケア、食事管理、しつけの指導</li> <li>・褥瘡予防等の助言、獣医師の支持の下でのリハビリなどの専門的なケアの実施</li> <li>・異常の早期発見と速やかな獣医師との連携</li> <li>・看取りやグリーフケアといった飼い主への心理的サポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性の確保と付加価値化:動物看護の専門家による日常ケアの助言等によって、飼い主の日常の対応力を向上させる。</li> <li>・家族の安心:ペットの健康面だけなく、飼い主への精神的な支援も含めることで、総合的に安心できるサポートを実現</li> </ul>	動物栄養学、 動物行動学、 動物内科看護学、 動物臨床看護学 動物医療コミュニケーション
ペット防災にまつわる業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平時のペット防災関係の普及啓発</li> <li>・災害時の被災動物の健康管理と飼養環境への助言</li> <li>・同行避難の支援・広報</li> <li>・避難所での避難者と被災動物の衛生的で適正な飼養のための助言</li> <li>・被災動物の一時預かり、シェルター管理、在宅避難者への訪問</li> <li>・仮設住宅での被災動物の飼養環境への助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正飼養の知識に基づく災害時の適切な助言:動物が苦手な人も含め避難者が衛生的かつ安全に過ごすために必要な動物の飼養管理への適切な助言</li> <li>・同行避難等防災関係の普及啓発等による災害時の安全性確保:ペット防災活動を通じて平時からの備えの重要性を伝え、災害時の安全性を高める</li> </ul>	基礎動物学 愛護・適正愛玩動物学 適正飼養指導論 動物生活環境学
ペット保険業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出された診療明細書やカルテを読み解く保険金支払い審査のサポート</li> <li>・コールセンター対応、営業などの活躍</li> <li>・顧客からの病状・治療に関する問い合わせに対する専門的な回答</li> <li>・動物看護学的知識を活かした社内外でのセミナー・講師等の情報の発信や共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査の効率化と正確性の確保:獣医療・動物看護学関係の専門用語を正確に理解し、審査の時間短縮と正確性の担保</li> <li>・顧客満足度の向上:現場を知る専門家が対応することで顧客や社内からの信頼を得る</li> <li>・不正請求の防止:不適切な請求内容を専門的視点から検知し得る</li> </ul>	全般
ペットホテル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり中の健康管理(食欲、排泄、歩様など)</li> <li>・ストレスなどによる体調の異変の早期察知と対応</li> <li>・獣医師の支持のもと持病を持つ動物の専門的なケアとモニタリング</li> <li>・衛生管理と感染症予防の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼い主への安心感の提供:国家資格を持つスタッフが常駐(または対応)することで、持病のある動物や高齢動物の預かりに関する安全性を保証し、飼い主の不安を解消する</li> <li>・サービスの付加価値向上:単なる預かりではなく、健康状態に配慮した細やかなケアを提供し、競合ホテルとの差別化を図る</li> </ul>	動物栄養学、 動物行動学、 動物内科看護学
不動産等にまつわる業務 (ペット共生住宅メーカー、ペット飼育可物件の取扱等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と動物が安全・快適に暮らせる住宅設計への助言・提案</li> <li>・入居者への飼育マナー指導やしつけ相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住環境のQOL向上:動物看護学と行動学の視点から、人と動物のストレスを軽減</li> <li>・近隣住民同士のトラブル防止:適切なしつけ・マナー指導により共生社会を実現への指導・助言</li> <li>・愛玩動物看護師の知識を活かした、顧客との円滑なコミュニケーションおよび信頼の構築</li> </ul>	動物生活環境学、 動物形態機能学、 動物行動学

（2）民間企業における職域拡大  
新たな職域での愛玩動物看護師の雇用機会創出に向けた検討

新たな職域等 ・グレー:すでに雇用がなされているような職域 ・イエロー:今までに雇用がないであろう職域	愛玩動物看護師の役割	差別化できる要素	関連する主な分野 (該当カリキュラム)
ペットツーリズムにまつわる業務 (自動車、航空機、船舶、鉄道等輸送機関やペット同伴可能ホテル等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行中や輸送中の動物の体調管理アドバイス</li> <li>・輸送時の安全確保</li> <li>・適切な輸送方法・輸送環境への助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心なサービス提供:移動中のストレスによる体調不良や事故を予防・早期解決し、サービスへの信頼性と集客力を高める</li> <li>・顧客との信頼の構築や満足度の向上:専門知識を活かした円滑なコミュニケーションにより顧客の信頼や満足度を高める</li> </ul>	動物生活環境学、 動物行動学 動物内科看護学
ペット関連用品にまつわる業務 (インテリア、ペット用品等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品の安全性・機能性評価等への助言</li> <li>・基礎疾患やライフステージに合わせた正しい使用方法の啓発・助言</li> <li>・さまざまなライフスタイルに対応した製品の企画・助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛玩動物看護師の知識を活かした製品開発:動物の生態・福祉に配慮した製品への助言・開発等サポートすることで、顧客の満足度を上げる</li> </ul>	動物生活環境学、 動物形態機能学、 動物行動学
ペットの最期にまつわる業務 (グリーフケア、エンゼルケア等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の喪失による心のケア(グリーフケア)が必要な飼い主への傾聴と必要なサポートの提供</li> <li>・必要に応じた専門家(カウンセラー等)との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共感と専門性を活かした対応:動物看護学の専門家として、飼い主の悲しみに寄り添いながら、適切な心のケアを提供する</li> </ul>	動物臨床看護学 動物医療コミュニケーション
学校関連・学校飼育動物にまつわる業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育動物の健康管理</li> <li>・参加者への衛生指導</li> <li>・教員・生徒への動物介在教育サポート</li> <li>・問題発生時の初期対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物との関わりの機会の提供:動物介在活動、学校飼育動物等、人と動物とのかかわる機会において、専門性を活かした助言等による活動の後押しや信頼性の構築</li> <li>・人と動物の安全確保:飼育動物の福祉を考慮するとともに、人・動物両者に安全で快適な機会や飼育条件を用意する</li> </ul>	人と動物の関係学 動物生活環境学
ペットテックにまつわる業務 ペットテック (PetTech):ペット (Pet) と技術 (Technology) を組み合わせた造語。テクノロジーの力で飼い主とペットとの生活を支援する商品やサービスのことを指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットカメラ、自動給餌機などペットと人の生活の質の向上のための助言</li> <li>・ウェアラブルデータなどの臨床的有用性の検証等</li> <li>・バイタルデータの分析や遠隔カメラ管理による健康管理への活用</li> <li>・動物看護学的視点でのアプリの設計・企画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の信頼性と実用性の担保:製品に臨床現場の視点を取り入れ、獣医師や飼い主に有用で、実用性の高い製品づくりを実現する。</li> </ul>	全般 動物行動学 動物生活環境学 ペット関連産業概論
飼育のサポートにまつわる業務 (高齢の飼い主へのサポート、多頭飼育問題への対応、社会福祉関係との連携)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチ型(訪問)のケアや介護</li> <li>・行政・福祉機関との連携による適正飼養指導</li> <li>・飼い主や動物の緊急時の対応サポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を守るセーフティネットの構築:飼育困難による動物の放置・飼育放棄や多頭飼育問題・崩壊を防ぐための適正飼養指導、多機関連携など調整役としての活躍</li> <li>・社会福祉やとの連携による共生社会への実現:多機関連携を通じて、地域の社会的課題解決に貢献する。</li> </ul>	人と動物の関係学 動物生活環境学
食品等公衆衛生にまつわる業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生、検査学などの知識を生かした業務への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生対策の強化:専門性を活かした知見を企業のリスク管理等に取り込む</li> <li>・消費者信頼の獲得:動物福祉に配慮した生産体制の構築をサポートし、倫理的観点からの企業価値を高める</li> <li>・公務員としての雇用の可能性</li> </ul>	動物栄養学、 公衆衛生学、 比較動物学、 生命倫理・動物福祉、 動物臨床検査学

**(2) 民間企業における職域拡大  
社会課題の改善に向けた活動における愛玩動物看護師の付加価値の整理**

社会課題・背景	項目	対象となる職域等	愛玩動物看護師の役割	社会課題解決に向けた付加価値
適正飼養指導				
動物の高齢化に伴う栄養面でのサポート需要の増加 飼育環境・食事管理の不備による疾患への不安	栄養指導	動物病院、ペットフードメーカー	<p>【疾患別・ライフステージ別の食事管理】            -基礎疾患(腎臓病、糖尿病、アレルギーなど)を持つ動物に対して、獣医師の指示に基づく具体的な食事管理・指導。            -健康な動物のライフステージに応じた適切な栄養バランス(子犬期、高齢期など)のアドバイス。            -フードの切り替えや食べムラへの具体的な解決策(与え方、トッピングなど)の提案。</p>	<p>【予防医療の強化と基礎疾患への配慮】            -適切な栄養指導により、肥満等を予防する。            -基礎疾患に対して食事面からアプローチすることで、動物の健康寿命の延伸に貢献する。</p>
無責任な飼育と過剰繁殖による多頭飼育問題 周辺環境の悪化	地域猫・TNR活動	NPO法人、動物愛護センター、獣医療施設	<p>【専門的介入・地域住民への説明】            -不妊去勢手術における補助、術前術後ケア。            -TNRの役割や意義などをわかりやすく解説。</p>	<p>【認知度向上と公衆衛生への貢献】            -地域猫活動の理解促進。            -地域での糞尿被害や騒音被害などの問題を解決し、周辺環境の保全に寄与する。            -望まない繁殖を防ぎ、猫の殺処分数減少に貢献する。</p>
展示動物の福祉	展示動物	動物園、水族館	<p>【動物福祉と公衆衛生の専門的な管理】            -展示動物の日々の健康観察、麻酔時の補助などの診療の補助業務            -飼育環境の衛生管理や感染症対策(人獣共通感染症予防)を徹底し、動物と来園者の安全を守る。            -エンリッチメント計画に動物看護学的視点から参画し、展示動物のストレス軽減と展示動物のQOL向上を支援する。</p>	<p>【動物福祉と公衆衛生の両立】            -展示動物の生理生態に則したエンリッチメントに関する助言により動物福祉に貢献。</p>
動物の生産・流通における動物の取り扱いや、飼い主教育	ペットショップ ブリーダー	動物取扱業	<p>【適正販売と健康管理】            -販売動物の日常的な健康観察、衛生管理、栄養管理。            -購入者への適切な飼育環境や予防医療、初期のしつけに関する指導。            -購入後のかかりつけ動物病院へのスムーズな連携を促進。</p>	<p>【動物の福祉向上と消費者保護】            -動物取扱業の飼養環境の向上等に貢献            -販売後の問題発生を予防し、安易な飼育や飼育放棄を防ぐ。            -購入者が責任ある飼い主となるための専門的な知識を提供し、消費者トラブルを未然に防ぐ。</p>
レジャーや観光における動物の適正な飼養や健康管理	ペットツーリズム	観光施設、ペットホテル、旅行会社、獣医療連携施設	<p>【安心・安全の提供と緊急対応】            -ペットが快適に過ごすためのアドバイス(熱中症予防、感染対策など)。            -旅行中の体調不良や怪我に対する応急処置指導および緊急時対応のサポート。            -観光地におけるマナー啓発(排泄物処理、リードの管理)。</p>	<p>【旅行業界の品質向上と地域経済への貢献】            -専門知識に基づいたサポートを提供することで、旅行商品の信頼性を向上させる。            -ペット同伴旅行者が安心して利用できる環境を整備し、観光客誘致と地域経済の活性化に貢献する。</p>
治療費の増加による経済的負担	ペット保険	ペット保険会社	<p>【適正な獣医療と円滑な保険運営への貢献】            -請求内容の精査や医療記録の確認を行い、保険金支払いの公平性と正確性を確保する。            -保険加入者に対し、予防医療の重要性や保険の利用方法について専門知識をもって啓発し、健康意識の向上を促す。</p>	<p>【経済的負担の軽減】            -飼い主の医療費への不安や負担を軽減。            -適切な予防医療により長期的な医療費総額を抑制。</p>
社会化期の問題による飼育放棄 不適切なしつけによる問題行動	しつけ教室	動物病院、ドッグトレーナー連携施設	<p>【早期医療介入としつけの融合】            -しつけと並行した健康管理指導(ワクチン、予防薬、デンタルケア)。            -社会化期特有の問題・悩み(排泄の失敗、吠え・噛み癖など)に対するアドバイス、獣医師との仲介。</p>	<p>【問題行動の予防と飼育放棄の削減】            -社会化期的重要性を飼い主に認識してもらう。            -問題行動が深刻化する前に予防・対応することで、動物と人のより良い関係を築く。            -「飼い主の手に負えない」ことによる飼育放棄を未然に防ぎ、社会的な負担を軽減する。</p>
ペットの高齢化 終生飼育の困難さ	老犬老猫の介護	老犬老猫ホーム、動物病院(入院動物の管理)	<p>【動物のQOL維持と痛みの管理】            -褥瘡(床ずれ)の予防など、環境面のアドバイス。            -認知機能不全、排泄障害、起立不能などに対する適切な介護技術の指導(体位変換、給餌補助など)。            -ターミナルケア(終末期医療)における動物と飼い主への精神的サポート。</p>	<p>【高齢動物のQOL向上と看取りの質の改善】            -専門的な知識で高齢動物の苦痛を和らげ、質の高い介護を実現する。            -飼い主の介護負担を軽減し、最後まで責任を持って看取れる体制を社会に提供する。</p>
災害支援				
災害時における人と動物の安全	災害対応 (ペットレスキュー等)	災害救助団体、動物保護団体、ボランティア団体、公務員、動物愛護推進員	<p>【災害時との避難所等での対応と平時における普及啓発】            -避難所でのペット同行避難者の把握や適切な避難所運営への助言。            -保護された動物の健康・栄養状態の確認、獣医師への仲介。            -一時保管動物の管理。            -保護された動物のケア(馴化、社会化)。            -避難所や仮設住宅での衛生管理や飼養への助言</p>	<p>【災害時の対応能力の向上】            -動物看護学の知識を活かし、災害時の他機関との連携などを貢献する。            -被災した動物の命を救い、元の飼い主や新しい家族との再会をサポートに貢献する。</p>

(2) 民間企業における職域拡大  
社会課題の改善に向けた活動における愛玩動物看護師の付加価値の整理

動物介在教育等					
動物介在教育(AAE)	人間の心の健康維持 人と動物の共生社会の実現 学習活動のサポート	教育機関(小学校など)、 動物介在活動団体	<p>【安全管理と倫理教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動動物の健康管理とストレスモニタリングを行い、動物福祉を確保する。</li> <li>・参加者に対して、動物との安全な接し方の指導。</li> <li>・命の大切さ、動物福祉、責任ある飼い主としての行動規範を教育。</li> </ul>	<p>【動物福祉の向上とQOL向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい知識に基づく教育を行うことで、動物虐待の予防や、動物福祉の考え方を広める。</li> <li>・動物介在活動による参加者のQOL向上を図る。</li> <li>・動物のストレスを管理し、アニマルウェルフェアの観点から質の高い活動を担保する。</li> </ul>	
動物介在活動(AAA) 動物介在療法(AAT)	ふれあい活動等による高齢者などの健康維持	福祉施設、病院、動物介在活動団体	<p>【動物と参加者の安全を確保する専門的なサポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動動物の健康管理とストレスモニタリングを行い、動物福祉を確保する。</li> <li>・参加者に対して、動物との安全な接し方の指導。</li> </ul>	<p>【社会的孤立の解消とQOLの向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物との交流を通じて参加者の孤独感や不安感を軽減し、心の健康維持に貢献する。</li> <li>・対話や笑顔を引き出すことで、高齢者や心身に課題を持つ人々の社会性の回復を支援する。</li> <li>・動物の適切な管理方法を示すことで、動物との触れ合いを通じた生命の尊重と共感性を育む。</li> </ul>	
社会福祉関係					
訪問飼育サポート	飼い主の高齢化 核家族化 共働き世帯の増加	ペットシッター事業所、 在宅ケアサービス、 動物病院連携サービス	<p>【緊急時対応と獣医学的な視点での観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不在時の健康管理や、基礎疾患を持つ動物に対するケア(血糖値測定投与など)。</li> <li>・異常の早期発見(食事量、排泄の質、行動変化など)と獣医師への報告。</li> <li>・長期間のシッティングにおける衛生管理とストレス軽減。</li> </ul>	<p>【サービスの信頼性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・獣医師の指導のもと、シッティング中の動物の命と健康を守る知識をもとに、サービスの質と信頼性を高める。</li> </ul>	
使役犬(使役動物)育成・指導	使役犬の福祉 使役犬の不足	日本警察犬協会、 日本警備犬協会、 全日本探知犬協会、 日本救助犬協会など各種協会	<p>【高い福祉水準の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使役犬の日常的な健康管理と、訓練時の怪我や体調不良の早期発見。</li> <li>・訓練士と連携し、ストレスを軽減するためのアドバイスを提供し、倫理的な訓練環境をサポートする。</li> <li>・引退した使役犬の終生ケアやセカンドキャリアへの移行支援に携わり、功績に報いる。</li> </ul>	<p>【倫理的な使役の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使役動物の高い福祉水準を確保。</li> <li>・動物福祉に配慮した使役を社会に示し、動物の功績と貢献に応える。</li> </ul>	
補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)育成・指導	ユーザーの生活面での不安 補助犬の福祉 補助犬の不足	日本盲導犬協会、 日本介助犬協会、 日本聴導犬協会など各種協会	<p>【犬の健康管理・訓練とユーザーへの指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練犬の健康チェック、栄養管理など、獣医療・健康管理の専門的サポート。</li> <li>・訓練士と連携した訓練・行動管理における専門的介入。</li> <li>・ユーザー(使用者)へのアドバイスと連携。</li> </ul>	<p>【訓練犬のQOL向上とユーザーへの貢献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助犬の高い質の維持と長期安定的な供給を実現。</li> <li>・ユーザーの安心感と生活の質の向上。</li> </ul>	
その他					
動物看護学教育	動物看護学情報のアップデート 生涯学習の推進	教育機関 出版社	<p>【最新知識の普及と継続的な教育の機会の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護師(あるいは獣医師)向けの教科書や専門書籍の企画・編集において、臨床現場に即した実用的な内容を提案する。</li> <li>・法改正や最新の獣医療・動物看護技術に関する情報を正確かつ分かりやすく編集し、継続的な教育(生涯学習)の機会を提供する。</li> </ul>	<p>【獣医療スタッフの知識向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物看護(あるいは獣医学)に関する最新知識や技術を教育現場へ提供し、質の高い獣医療・動物看護に貢献する。</li> <li>・学習の場を設けることで、生涯学習に寄与する。</li> </ul>	
動物愛護行政 公衆衛生	動物の適正飼養 公的な衛生管理 地方公務員獣医師の人手不足	地方自治体(動物愛護管理センター、保健所、食肉衛生検査所)	<p>【動物愛護行政の専門性強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の適正飼養に関する相談対応、指導、普及啓発活動。</li> <li>・収容動物の健康管理、疾病予防、福祉改善(ストレス軽減)。</li> <li>・動物愛護管理法に基づいた立ち入り調査の補助や行政手続きのサポート。</li> <li>・食肉検査を円滑に行うための補助。</li> </ul>	<p>【地方行政への参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物愛護センターでの業務を一部受け持ち、動物の健康管理に貢献するだけでなく、介在教育にも加わる。</li> <li>・地域住民への動物愛護精神の普及を通じて、責任ある飼育を促す。</li> <li>・安心・安全な食の提供に貢献する。</li> </ul>	
動物用医薬品	動物用医薬品における安全性・機能性の懸念	製薬企業(開発部門、学術部門、営業部門)	<p>【臨床現場の知識提供と治験サポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新薬や新製品開発における動物病院側の視点(利便性、現場での声)を提供。</li> <li>・臨床試験における動物のケア、データ収集、検査補助。</li> <li>・実験動物の管理。</li> <li>・自社の製品について、その利点やポイントをわかりやすく説明する。</li> </ul>	<p>【安全性の確保と医療の進歩】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物の負担を軽減しながら、信頼性の高い臨床データを収集し、製品の安全性と有効性の確立に貢献する。</li> <li>・最新の医療情報を現場に広め、獣医療全体の水準向上を助ける。</li> </ul>	